マネジメントチーム News

令和６年１１月号

香川県防災センター・危機管理先端教育研究センターへ行ってきました

防災の取り組みに向けて、アルプスかがわとふじみ園職員、地マネ等で香川県防災センターと香川大学　危機管理先端教育研究センターへ行ってきました。

●香川県防災センター

火災現場（煙）からの避難体験

内容　煙が充満している暗い部屋から、煙を吸わないための注意事項（口元をハンカチ等で覆い、体勢を低くして移動する）を意識しつつ、非常灯を頼りに各部屋の扉を開けて出口へ向かうというものでした。

地震体験（震度7）

内容　場所の設定はダイニングでした。固定された状態のダイニングテーブルの下に潜り、テーブルの脚にしがみついて身を守ろうとしました。しかし、体は振動で動くためテーブルの下に身をかがめた状態を保つのが難しく、またテーブルの脚を握っている手は振りほどかれそうなほどの揺れでした。

体験より

被害想定の映像視聴や地震・火災の疑似体験を通して、防災に対する考えや想像力を深めることができました。それと同時に、実際に体験しないと自分事として考えにくいことや、災害は頭の中だけの想像とは異なることを実感しました。

また、実際に体験をすることは、災害時、発達障害のある方がどのような様子になる可能性があるのか、周囲の人はどのような支援ができるのかなどについて想像するきっかけになると感じました。例えば、今回の体験を通して、発達障害のある方が火災現場や地震発生時に避難する場合、恐怖やパニックにより、逆走、フリーズ等の状態になることや、その場で注意事項を伝えても、恐怖やパニックで話を聞くのが難しい可能性などを想像しました。

発達障害当事者のご家族や周囲の関係者の方にも体験をしていただき、自分や発達障害のある方が災害発生時にどのような状態になる可能性があるのか、まずはイメージを持つことが大切ではないかと感じました。

●香川大学　危機管理先端教育研究センター

訓練施設にて体験

『学校教員を対象とした児童生徒の安全確保・避難誘導ができる人材育成コース』を体験し、発災時の緊迫した状態で、普段の訓練通りにできるかどうか（「ここは良かった」「ここはもっとこうしたら良かった」）話し合いました。

内容は、授業中に緊急地震速報のアラート音が鳴り、スクリーンに映し出された教室内にいる生徒に避難行動を指示し、校庭まで避難するまでの体験でした。

体験してみて、命を守るための行動の指示や避難時の声かけの際、自らも実態がわからず判断に迷う中、状況判断して児童生徒を不安にさせないよう大声で明確な指示を出すことや、不安な状態の児童生徒への対応など、予期せぬ課題点に気づくことができました。「**各事業所での避難訓練はシナリオ通りにしていると思われるが、シナリオ通りの災害はないので、さまざまな事態を想定した訓練が必要**」という香川大学の先生の言葉も心に響きました。

各事業所での避難訓練は、パターン化された計画を定期的に実施しているところもあるかと思います。パターン通りの災害ではなかった場合、特性のある方がどのような行動になるか想像してみてください。「いきなり本番」ではなく、さまざまなことを想定した訓練を積み重ねることで、当事者や周囲の関係者が少しでも落ち着いて適切な判断ができるのではないかと考えます。

今後、メンバーのみなさんとともに香川大学　危機管理先端教育研究センターへ体験に行くことを計画したいと考えています。今回報告した内容をメンバーのみなさんにも体験していただき、防災への取り組みとして身の回りの発達障害の方に何ができるのか、一緒に考えたいと思います。